

年間授業計画

高等学校 令和5年度（2学年）教科 国語 科目 古典探究

教科：国語 科目：古典探究 単位数：3 単位

対象学年組：第2学年 1組～8組

教科担当者：（1・4・8組：山田）（2・7組：細川）（3・5・6組：鈴木）

使用教科書：（古典探究 筑摩書房）

教科 国語 の目標：言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

【知識及び技能】生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を伸ばす。

【学びに向かう力、人間性等】言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

科目 古典探究 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めている。	「読むこと」の領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通した先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して積極的に他者や社会に関わろうとしている。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域			評価規準	知	思	態	配当 時数
			語	書	読					
1 学 期	古文編 第2章 歌に思いを託す 物語（一） 大和物語「姨捨」 （方丈記） ○歌物語の表現の特徴を理解し、物語を解釈する	・指導事項 ①「大和物語」を通して語句の意味や用法を確認する。 ②「大和物語」を通して、歌がよみだされるまでの物語の構成や展開に注意しながら、話の面白さを味わう。 ③「なり」の識別を理解する。 ・大和物語「姨捨」 方丈記「ゆく河の流れ」 ・一人1台端末の活用 等	○	○	○	・「大和物語」に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。 ・歌物語という文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えることができる。 ・教材の内容に関心を持っている。（発問・授業時の反応） ・学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。（学習の見通し）	○	○	○	7
	漢文編 第1章 創成と典故－故事成語 「先従隗始」戦国策 ○新たな表現を支える典故の力を理解する	・指導事項 ①「郭隗先生」による、求めるものを手に入れるための意外ともいえる方法を読み解き、中国古代のものの見方、感じ方や考え方を理解する。 ②故事成語を理解する。 ③本文に用いられた句法を理解する。 ④漢文の特色を声に出して味わう。 ・「先従隗始」戦国策 ・一人1台端末の活用 等	○	○	○	・「先従隗始」に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。 ・「先従隗始」の故事成語という文章の種類とその特徴について理解を深めることができる。 ・故事成語という文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えることができる。 ・教材の内容に関心を持っている。（発問・授業時の反応）	○	○	○	7
	定期考査						○	○		1
	古文編 第5章 体験を語る 日記 更級日記「源氏の五十余巻」 ○作品に表現された心情を読み取る	・指導事項 ①作者は過去を回想してこの作品を記しているが、回想しているときの作者の心情を読み取る。 ②「更級日記」を通して、語句の意味や用法を確認する。 ③「なむ」の識別を理解する。 ④助詞の用法を理解する。指導事項 ・更級日記「源氏の五十余巻」 ・一人1台端末の活用 等	○	○	○	・「更級日記」の日記文学という文章の種類とその特徴について理解を深めることができる。 ・「更級日記」を通して、時間の経過による言葉の変化や、古典が現代の言葉の成り立ちにもたらした影響について理解を深めることができる。 ・日記文学という文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えることができる。 ・学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。（学習の見通し）	○	○	○	7
	漢文編 第4章 言動の記録－史伝 「鴻門之会」史記項羽本紀 ○言動の記録をたどり、人物像を捉える	・指導事項 ①登場人物の性格や心情・人間関係などを整理しながら話の展開をおさえ、歴史記述の特徴を把握する。 ②本文に用いられた句法を理解する。 ③漢文の特色を声に出して味わう。 ・「鴻門之会」史記項羽本紀 ・一人1台端末の活用 等	○	○	○	・「史記」に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。 ・「史記」という文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えることができる。 学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。（学習の見通し）	○	○	○	7
	定期考査						○	○		1
古文編 第7章 歴史を語る 物語（三） 大鏡（一） 「花山院の出家」 「南の院の競射」 ○歴史的事実と比較しながら、物語を解釈する	①文章の構成や展開に注目する。 ②登場人物の思惑を読み取りながらエピソードの面白さを味わう。 ②「大鏡」を通して、語句の意味と用法を確認する。 ③敬語の用法を理解する。 ④「まし」「だに」「かは」「な～」の用法を理解する。	○	○	○	・「大鏡」に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。 ・歴史物語という文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えることができる。 ・教材の内容に関心を持っている。（発問・授業時の反応） ・学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。（学習の見通し）	1			7	

2 学 期	漢文編 第7章 読み継がれる思想 「論語」論語 「性悪」荀子 ○普遍的な人間性を語る論法に 触れ、自らの考えを広げる	・指導事項 ①登場人物の社会観や人生観を読み 取り、それぞれの生き方を理解す る。 ②荀子の人間観を読み取る。 ③本文に用いられた句法を理解す る。 ④漢文の特色を声に出して味わう。 ・「論語」論語「性悪」荀子 ・一人1台端末の活用 等	○	○	○	・「論語」「性悪」という文章の種類とその特 徴について理解を深めることができている。 「論語」「性悪」を読むことを通して、我が国 の文化と中国など外国の文化との関係について 理解を深めることができている。 ・「論語」「性悪」について、内容や解釈を自 分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたり することができている。 教材の内容に関心を持っている。(発問・授業 時の反応)					6		
	定期考査								○	○	1		
	古文編 第4章 人と人とが織りなす 世界 物語(二) 源氏物語「光源氏の誕生」 (桐壺巻) 「若紫の君」 (若紫巻) ○多様な人間関係と物語の展開 を読み取る	・指導事項 ①「源氏物語」における登場人物の 行動や心理を場面や状況に応じて的 確に捉える。 ②長編物語がどう始まり、展開する かを理解する。 ③「源氏物語」を通して語句の意味 や用法を確認する。 ④助動詞の用法を理解する。 ⑤敬語の用法と対象を理解する。 ・源氏物語「光源氏の誕生」 「若紫の君」 ・一人1台端末の活用 等	○	○	○	・「源氏物語」における文の成分の順序や照 応、文章の構成や展開の仕方について理解を深 めることができている。 ・「源氏物語」を読むことを通して、我が国 の文化の特質について理解を深めることができ ている。 ・「源氏物語」の読解を通して、必要に応じて 書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈 するとともに、文章の構成や展開、表現の特色 について評価すること。 ・長編物語という文章の種類を踏まえて、古典 特有の表現に注意して内容を的確に捉えること ができている。 ・生涯にわたって古典に親しみ自己を向上さ せ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を も深めようとしている。(古典への取り組み)				○	○	○	7
	定期考査								○	○	1		
3 学 期	漢文編 第4章 言動の記録―史伝 「四面楚歌」史記項羽本紀 ○言動の記録をたどり、人物像 を捉える	・指導事項 ①登場人物の性格や心情・人間関係 などを整理しながら話の展開をおさ え、歴史記述の特徴を把握する。 ②本文に用いられた句法を理解す る。 ③漢文の特色を声に出して味わう。 ・「四面楚歌」史記項羽本紀 ・一人1台端末の活用 等	○	○	○	・「史記」における文の成分の順序や照 応、文章の構成や展開の仕方について理解を深める ことができている。 ・「史記」を通して、時間の経過による言葉 の変化や、古典が現代の言葉の成り立ちにもたら した影響について理解を深めることができている。 ・言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、 粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感 じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しよう としている。(言語活動への取り組み)				○	○	○	7
	定期考査								○	○	1		
	古文編 第7章 歴史を語る 物語(三) 平家物語 「能登殿の最後」(巻11) ○歴史的な事実と比較しなが ら、物語を解釈する	・指導事項 ①ことばの響きやリズムを味わう。 ②時代の転換期を生きた人々の思い や考え方を読み取る。 ③「平家物語」を通して、語句の意 味や用法を確認する。 ・平家物語「能登殿の最後」 ・一人1台端末の活用 等	○	○	○	・「平家物語」に表れている、言葉の響きやリ ズム、修辞などの表現の特色について理解を深 めることができている。 ・「平家物語」を読むことを通して、我が国 の文化の特質について理解を深めることができ ている。 ・「平家物語」の読解を通して、必要に応じて 書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈 するとともに、文章の構成や展開、表現の特色 について評価することができている。 ・言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、 粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感 じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しよう としている。(言語活動への取り組み)				○	○	○	4
	定期考査								○	○	1		
漢文編 第5章 物語の創造―小説 「王昭君」西京雜記 第3章 韻文の表現 「登樂遊原」他 ○作品を正確に読み取り、その 構成を分析し、表現効果を理 解する ○景情一致の技法を理解する	・指導事項 ①王昭君(『西京雜記』)と李白 「王昭君」、大江朝綱「王昭君」、 赤染衛門「王昭君をよめる」を読み 比べる。 ②①でまとめた点を踏まえ、それぞ れの作品の特徴について、ノートに まとめる。 ③グループに分かれ、各自がまとめ た点を比べて、共感する点や意見が 異なるを話し合う。 ①起承転結という形式を用いて、詩 人がどのように心情を表現している のか、考える。 ②漢詩の種類・韻字・対句をまとめ る。 ・「王昭君」西京雜記 「登樂遊原」他 ・一人1台端末の活用 等	○	○	○	・「王昭君」の読み比べを通して、用いられて いる語句の意味や用法を理解し、古典を読むた めに必要な語句の量を増すことを通して、語感 を磨き語彙を豊かにすることができている。 ・「王昭君」の読み比べを通して、文章の種類 を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えるこ とができている。 ・発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注 意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深 めようとしている。(授業時の反応) ・五言絶句の近体詩における文の成分の順序や 照応、文章の構成や展開の仕方について理解を 深めることができている。 ・五言絶句の近体詩の成立した背景や他の作品 などとの関係を踏まえながら古典などを読み、 その内容の解釈を深め、作品の価値について考 察することができている。 言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘 り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ 方、考え方を深め、自らの学習を調整しよう としている。(言語活動への取り組み)				○	○	○	4	